

ファッションで浜松の街へ旅立とう!

「う～ん、観光ねえ、文化ねえ、創造都市ねえ…」夜9時の田町のとあるバー、チームで話し合っていると、メンバーHさんがふと口にしたのが「ジャラッパ」。ここから、私たちの浜松の未来が広がり始めました。ちなみに、この「ジャラッパ」はHさんのれっきとした造語です。

さて、何の話かといいますと、この1年、私は所属している商工会議所の活動の一環で「浜松の観光」について、真面目～に勉強してきました。そう、2020年のオリンピックイヤーも視野に入れての、「お・も・て・な・し」、今や日本全国が、観光立国を目指して空前の観光誘客ブームなのです。

さらに昨年末に浜松は、様々な音楽の活動を認められ、イタリア・ポローニャなど世界の名だたる文化の薫り高い都市と並び、「ユネスコ創造都市ネットワーク」に認定されています。これは、わが街が「創造的な音楽の文化を生み出す街」として世界に認められ、期待されている、という快挙なのです。

そこで、私たちの調査チームが、浜松の観光を盛り上げるコンテンツを探し、冒頭の話し合いの果てに思いついたのが、ジャラッパ。

浜松をこよなく愛する人々の魂を熱くする、まさに浜松人のソウルミュージック＝「まつりの信号ラッパ」。これに、浜松では特にプレイヤーの多い「ジャズ」を融合させたジャラッパ。アンパンマンのマーチがジャズになるのだから、まつりのラッパがジャズに使えないわけがない! ジャラッパを小学校のチャイムにしてみたり、街なかのBGMにポッサなムードのジャラッパが流れてみたり、はたまた、秋にはブラスバンドも巻き込んだジャラッパフェスをして、各町競ってみたり…。

一年中まつりを楽しめて、郷土の文化への愛と誇りも育まれて、観光資源にもなって、なおかつ新たな音楽が創造できる!

かの任天堂を世界随一のゲーム会社に育て上げた、中興の祖 山内博社長も、新しい文化である「ゲーム」の創造についてこう語っています。

「娯楽という分野は、つねに従来と異質のものを開発しなければならないのです。つまり改良の程度ではダメです」

ジャラッパも、荒唐無稽なようですが、文化って意外にこんな思い付きが継続することで育ち、成熟していくものではないか、と思っています。

以前、市外から訪れたアーティストや街づくりのプロから、「浜松の街なかは、独自の音と色を感じない」という話を聞いたことがあります。それならば、浜松らしい進取の気性とチャレンジ精神と好奇心で、新たな音と色を創造して、「松風」のようなカッコいい文化が、旋風となって巻き起こったら、この街はもっと面白くなるのではないのでしょうか。

まだまだ、浜松の街を盛り上げるアイデアはあふれかえっていて、1冊本でも書いてしまいたいくらい! ご興味のある方は、「ジャラッパ!」と私に話しかけてください(笑)。



佐々木まり子

肴町のレディースブティック「Sun Marry」オーナー。Sun Marryは、お客様は3歳から100歳、取扱いブランドは50以上という幅広いバリエーションを持つセレクトブティック。おしゃれのお手伝いで、関わるすべての女性をより素敵にして、最高の笑顔を引き出したい!と日々奮闘中。

HP <http://www.sunmarry.com/>
ブログ「さんまり日記」

<http://sunmarry.hamazo.tv/>